

中国のほんの話 (28)

台湾の漫画家・朱徳庸

蔭山 達弥

数年前、格好が良い若者を形容する言葉として、英語の‘cool’の音訳である「酷(クウ)」という言い方が中国で流行った。今回、紹介するのは、台湾の漫画家・朱徳庸が年頃の女性を題材にした4コマ漫画集『澁女郎』(「澁」は渋い、不明瞭の意)である。

この漫画の主人公は4人の独身女性である。同じアパートに住んでいる彼女たちの心理面や生活面で起こった意味深長な状態を朱徳庸は面白可笑しく描く。何故、年頃の女性を題材にするのか。朱徳庸は言う。「ここ数年、男女を問わず、独身者が急速に増えている。とりわけ重要なのは彼らが独特の考え方や生活様式を自ら作り出している。この点が深く私を惹きつけた。そこで彼らを漫画にしようという考えが浮かんだのだ。」

4コマ漫画集『澁女郎』は独身女性を4種類のタイプに分けている。一人は愛情だけがなくて結婚は要らないタイプ、一人は仕事だけがなくて愛情は要らないタイプ、一人は一日中結婚を考えているタイプ、そしてもう一人は愛情や結婚について何も知らないタイプである。この4コマ漫画集の各ページの側には、意味深長な作者の箴言が書き加えられていて、漫画の面白さを倍増している。いくつか紹介してみよう。

「もし、あなたが恋人に誠実なら、あなたは恋人を失ってしまうだろう。彼女はあなたから離れるか、あなたに嫁ぐかのどちらかだ。」「独身女性は当然、家庭の主婦より美しい。なぜなら、独身女性は男性に世話を焼く時間を自分に世話を焼くのを使うからだ。」「人の最初の恋愛は愛情のためにするが、それ以降の恋愛は新鮮さと比較のためにするのである。」「独身を選択するか、結婚を選択するかは、君が孤独を選択するかそれとも束縛を選択するかだ。」「もし、あらゆる人が君に結婚するように言うなら、君はしばらく独身生活を続けたほうが良い。」「良い恋人とは、さよならする

時よりも出会う時に楽しくさせてくれる人。悪い恋人とは出会う時よりもさよならする時に楽

しくさせてくれる人。」紙幅の関係でこの辺にしとておきますが、読者の皆様如何でしょうか。

朱徳庸は1960年生まれ。彼は語る。「漫画は心療科医のようだ。私の傷を癒してくれる。」小さい時から勉強が嫌いで、墨汁をひっくり返す(漫画を描く)のが好きだった。生活上の不満や勉強の圧力を皆、漫画の中にぶちまけた。昼間、学校で教師からテストの点数が悪いと叱られると、放課後、その教師を悲惨に描いた。子供の時の彼は、漫画を心の拠り所にしていて。一本の筆と一枚の紙があれば、止血し傷を治せる。4歳の時から、無茶苦茶に描くのが好きで、中学時代はもっとひどくなった。漫画は僕の砦、その時だけが傷つけられずに済む。彼は大学時代、映画の脚色や演出を主に学び、脚本と監督の課程を専攻した。このことが、彼の漫画をさらに上のレベルに押し上げた。映画と漫画の関係はかなり密接である。いつも漫画を描く前、監督のように出演者を選び、対話を書くのは脚本と同じ、それからカット毎に一枚一枚描く。多くの外国映画の監督が撮る脚本は、同様に図で表している。

十数年にわたって描き続け、朱徳庸はすでに台湾で最も量産し、知名度ナンバーワンの漫画家となった。インスピレーションはどこから来るのか尋ねると、散歩と人を観察することと彼は答える。24歳の兵役に服役している時に、ふとんに包まり懐中電灯で照らしながら描いた『双響砲』で夫婦間の矛盾を描き、売れっ子になってから、『酷溜族』で新新人類を描き、台湾の新聞で連載十年の記録を打ち立てた。『澁女郎』と併せて、中国本土では200万冊以上(海賊版は250万冊)を売り上げた。彼の勢いは止まることを知らない。

かげやま たつや (助教授・中国文学)

